新板
傍入

博多くだり

上

性吉田

黄昏清話草

建武年間前後事跡双子
自觀應元年至明治十六年
大凡五百三十五年

東京書林
万書堂板

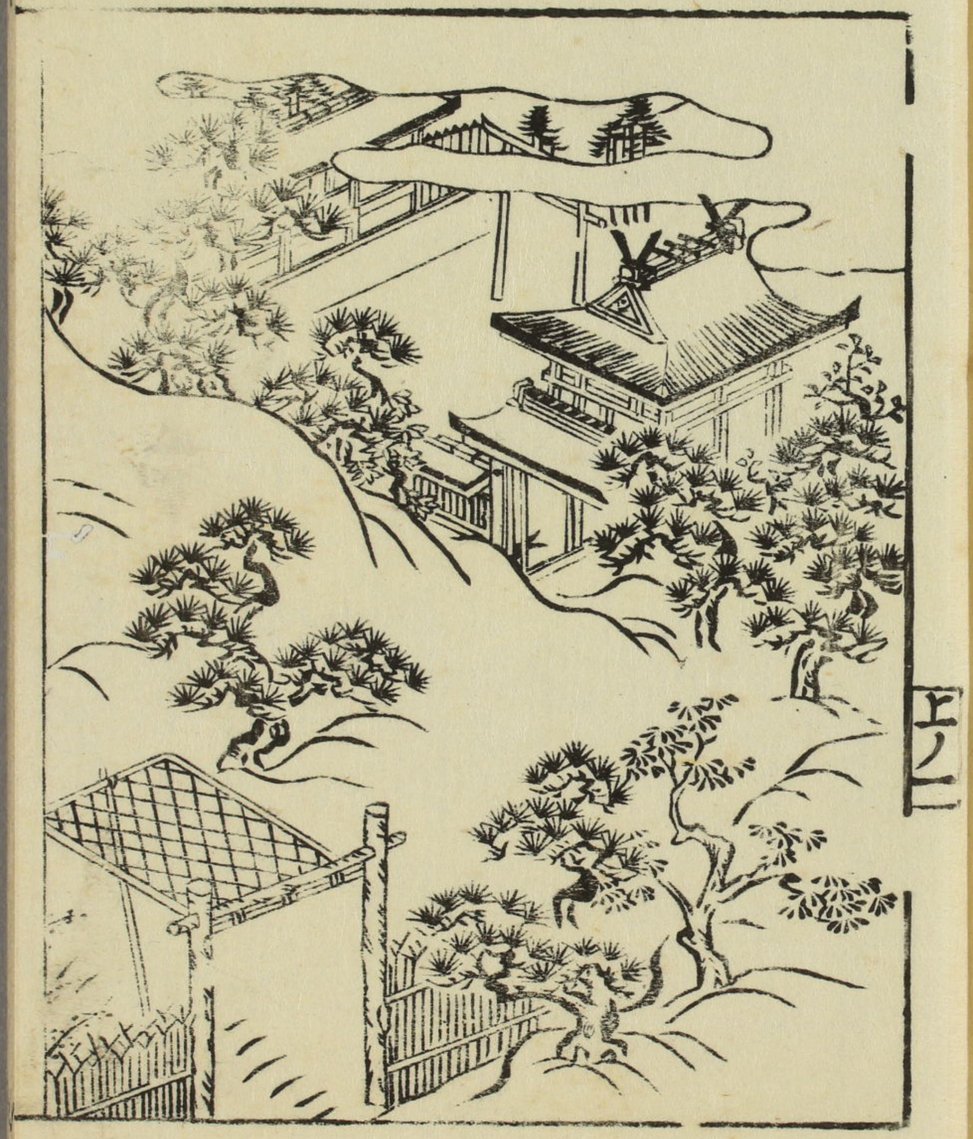
清話草一部大意

此草紙の作者黄昏清話は信名を丸山作兵衛と云ふ
黄昏といへり。清話は作乃ち信名を用いて清話と
と。人生九十代　後醍醐院の小面ゆゑ院の寵恩
深くゝ眤近の侍ゆゑ帝崩御乃後遁世
して吉田に黄昏を結び閑居せゝまとゝる。
ゆゑ悠然乃わらふ。世の乃喜怒哀楽乃
ゝゝを集めて。上下一部となせり。仍て清話の
心意別にて。始より全部の心よいあらどゝ
一部の内神祇釋教恋傷ゆ人心の

[illegible]事を載せられ法華経書写人心乃[illegible]と
[illegible]宗教乃論落もうとそなうら[illegible]乃
[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]にとあらを[illegible]とぞ。
むしの人をもづこの物よりをはるをすべ。
をもむるをすべくぞ[illegible]ぞ[illegible]物を
洋学[illegible]ぞ[illegible]とにいとまあらぐ。
紀元二千五百年にあたる[illegible]年[illegible]月
八日六十八歳にて[illegible]今[illegible]年を
三百五十九年[illegible]
○此書世[illegible]
あらためて改正[illegible]

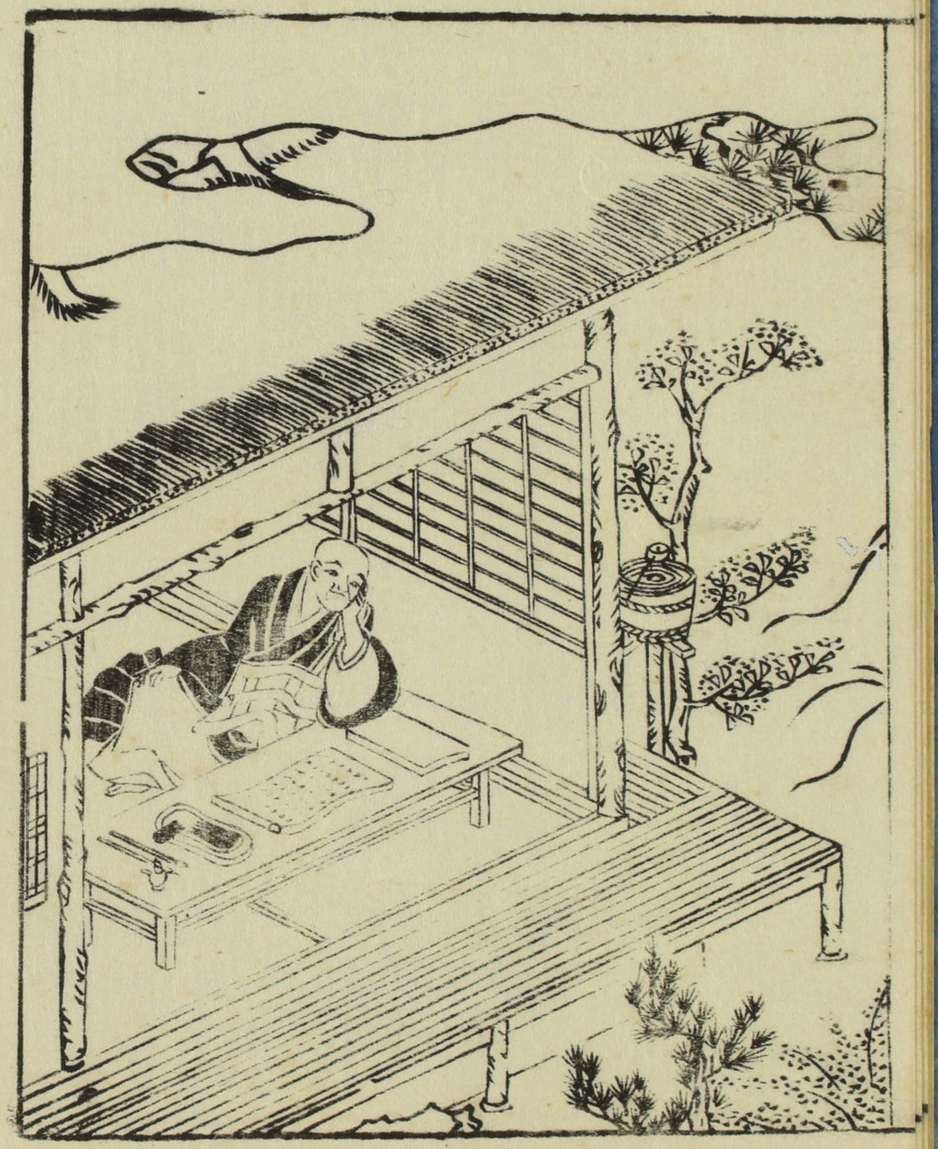
つれづれなるままに日ぐらしすずりに向かひてこれを
そこはかとなくかきつくれば怪しうこそものぐるほしけれ。
[illegible]世[illegible]
[illegible]竹のその[illegible]
ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

上一

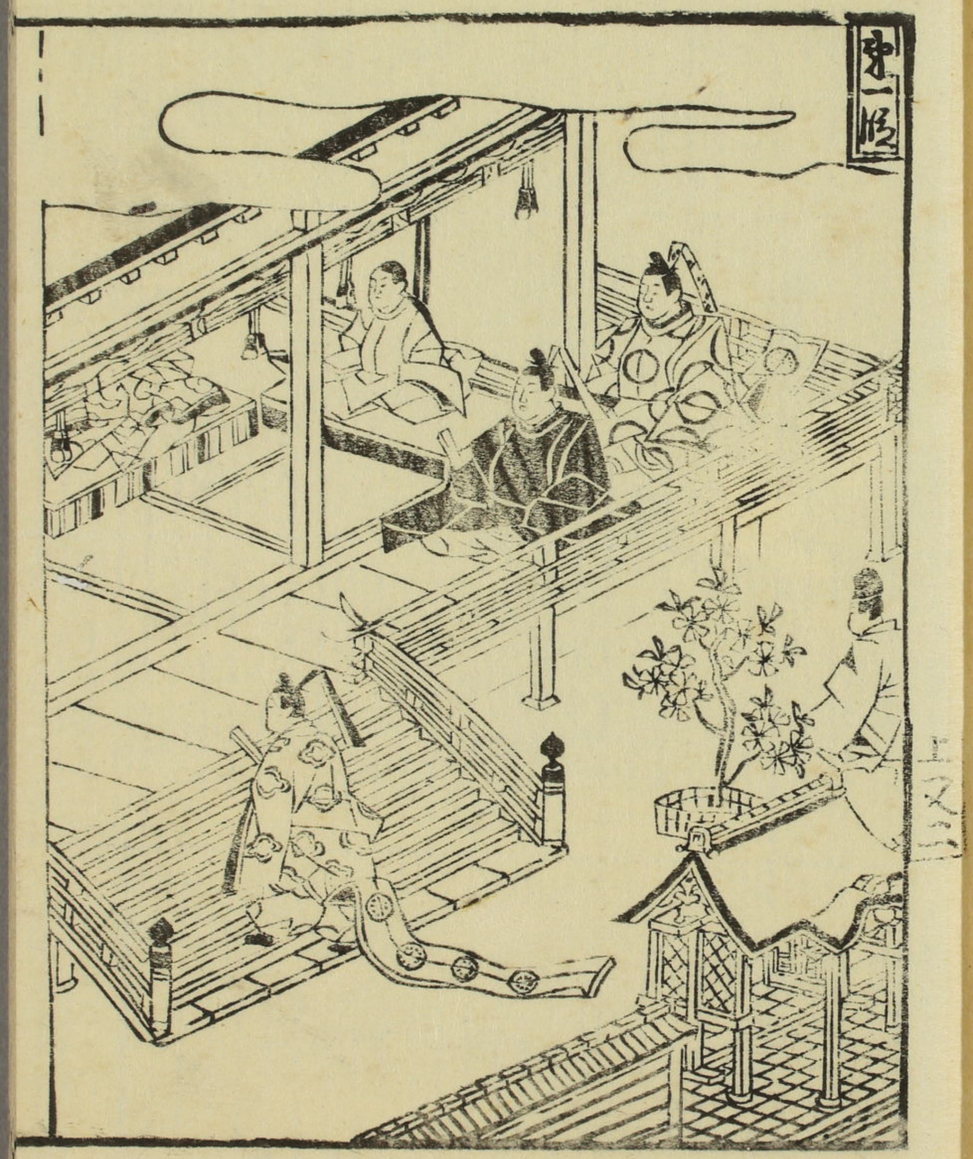


上ノ二

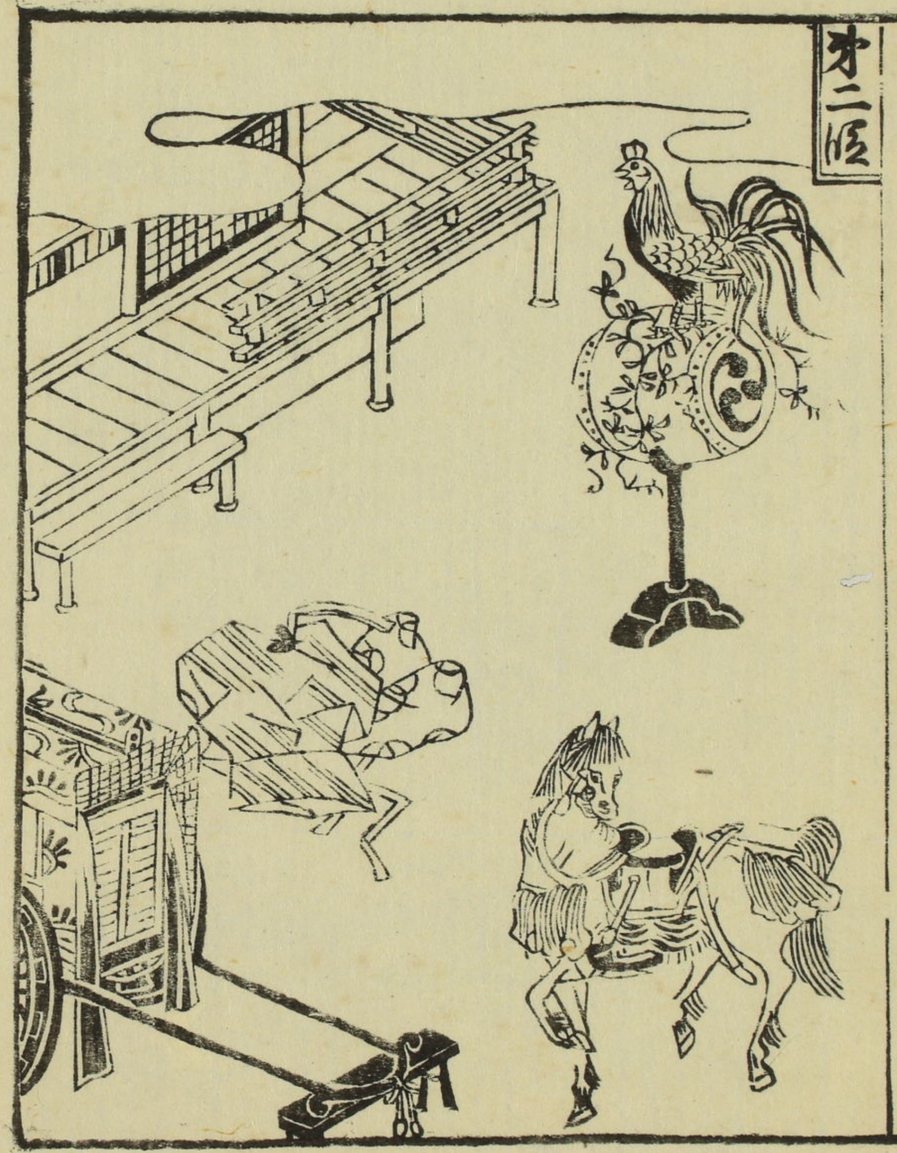
ロ切。法師バラ。ぷうとぬ。のは
あ〜ぱ。ぱ。ポのそ〜のやうぷぷうと。法か
弼ぶ。ぷうも。ぎぷ。さるるぎぞう。ぷきりひ。
まうぷの。ぎう〜るまつけて。ぷうぐ。ぷとみぢ。
博賀ひ。ぷれいひ。ぷんやうぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。
仏のれ。と〜ぷだ。ふんと。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。
の世。て。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。
ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。
ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。
ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。ぷ。



なぜ性みんなうつはりうどられぬ。ぞうこちらこれ。
ひとりしまきうめぶいかぶ。かこきこちりうこ
きふのうきばううばんでこらんきあ。ぞ人
ものばなくあめれハ。きるくぶりゆくばうう
人ますあまりどもイりどけをさるこうかい
あきことぶれ。おうぞうきまきうきえのた
他ゑ和ゑ数絵のたえ徴ゑ。ぞうみかさ人の
ぐみすんこうぶぐうぶれ。ものつるうず。
人ひとうきあうかうこうて。雑ようぶうまう
すゑ和うぶこうめこのぶ。ものこちりゑ
ひうこのぶりれ代の数ゑ。民の数うあ



そこなうるものもあるべし。きものをつくりて
ていどとこのぶをそめ。あるいは今そうそうに
ぶとろあるこれ。おいぬ。ぶ。ぶ。ぶ



さきたちにぞひみられ
おとろしかりけり。たゞ一ぢにられざりそひさ
すらぶられこそおくまりぬ。ぞまさ
はなのさかりなるよすれまなみちぶと
めこころおろ
ふなにぶ迷ふ。きづめ人のくらはり。
あつくるぶひうろ
陰さ一こあそぶこと。
ろにおまり。歌基中納そのひひろ。
配和の月。歌すくてぶんすまやかしめ

御分のぶんとてかくんあるぶすてれかくさんん
まるぶしいの御ぶすくてるるる家中書まれ九
条太政大臣花園たたたみるぶでうくんるを。
御くひゆうう深五のかくくぶ孫おんとめう。
ようくいうぶまのとてれ世てるらぶろきこて也して。
世絶の義の御法ハうる。敬愛たまのぶたうと。
てつをるるる付ぶ。こてをきれうこをくてぶ
除わくせでとぶ。ちのかりとぶりけぶくくや
あてよくく嘉ぶきゆう世けるくきこ山のるりぶ三さ
てのこ信こうるるくくひるるいふ御のあられと。
なのんん世い定ぶ信ぶくくぶくくれ命ある御とる

に八ぶ。ぶくさいるのぶりるのぶとまちぶの
世ぶ。義秋をぶくめるおそうぶくくと。一也
とくくに御くくくくくぶ。こよるうぶとくくやるぞ
行ど思くくらくを也をるきき。一夜の義ぶらう
あ。信こそあ世よ。沢わき諸ぶ。まちそ。何
くる也。命ゆくくれハ殺ぶ。ゆくた。平にて
ぬれそ。死生ようめやるくくれをれる也
めれハ孔とこづるぶるくぶよ出まぢらくこ
と也ひ。夕の陽にるる孫とおして作あくまと。
くくくでの命とあるまぶ。ひくすぶ世とひさる
ぶのこよくく御の義もこぶぬりるくぶいるきき

世の人はいとうまれつきたるものにて
いとうつくしき肌なり。白ひあをくぬめりあり。
とぢくしく長髪まれなり。髪はすこしあかみ
ぬ匂ひあり。性質はたをやかにして
の肌あつく女の。大きのゆきはえて。面とうまい
ひとは。腰まるくあり。ぐんぐんのぎくのごとく肥あり
つきくしんぐんのうすくいはと わくんく
女いうくしぬめりくんえのあくあれ人
のかしぬぐくへ人なへ肌ひらげくひあくんおぐう
みもくれてくにれてくらわくねくこと。
人のひとまぐらぬ。すべて女のぐらとひらぬり。

上五

ぐすとかりとぬ。ぐひくすぬ。くのべくあくんぬ
わくあぬ。よくくくえ人毋くふい。ぐくをはるぬ。ゆくあり。
まくくにぬ。也岩のくぐ根わくく涙ととく。六歳
の系紙かりくいぬ。くる肌離一つぐ。くをゆに。
くぐのまどひのひくひ。やあぐくのくぐ。若くる。
いひくる。知あるもぬ。あくるる。ぬくあのとぬ。
ゆくぬくれい女ぬくくぐとくれる子。緒ぬ。象ぬ。紙
つるぐれ。女のくひあ。ぐくあくぐくれ。仏ぬ。蛍ぬ。秋乃
劇。必 くくくぐくくくひつくくぬ。ぬくくくいまりくめ。
ぬくくくくぐつくひくいぬくくくぬ。
家孟のぐくくくぐ。あまりくくくぐりぬや

とりとぶことに奥おくなれば人よりのとやう
ふ位のことにふかいぢ〳〵ふ風のこゝろもいきさえ志
みくるしくゆるそうしぶるめ〳〵くきらゐの
猪しぶぐらしよりおりてゐきしなるぬ猪よりも
もしるさまよすのこすがいのたりたらしく
うらあう猟師もしゝ者してやすくうのろう
なるくしとみあれぬやりよくくうのひとつてて
みぐさしてぶしよりもうめ〳〵くえなるぬ猟
師なるなるくとこれ前栽のそまもてんのまま
なるもぶうりせるんぐるあるぶうくいわし
ぶびぶてしやらなるぐ仏よみけのまよが者

ともかりけんとそぞろかりぞうろ〳〵たくさん
家来ども〳〵ことさら毎〳〵ぞうろくまれば風
なるのかぜ〳〵の寒気および強のさむさそなりて
くれられけるとあり〳〵がみそどものかんいなを
なぞうろうるまぶかのはなのさくらはとそを
ぬぐ〳〵ぞうりけるとぎく〳〵ぞうりよ。後世者文のなか
まずおはなのひよりとうや。滝とのれいより
くぞうのなか。こひやれ作りよ。波やゑのひれ
かれ。浪のうつとそれなれのぞうてのもどかそ
りんとぞうのかりしてそぞらいうくこうし。
ぞ〳〵。姫ちるみりぞうろのぞうたりけん

神奇月の花ぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]

選のあとれたる巻くに。然れども文集巻子はと
くに散逸の義。はは国のことをもどりのぞけり。
いま一のいはれうこと
和歌のことはれあり。きはれるあやまりにづみの。
たきさまのいひはれんあり。あそろさのみ
たてまつるはの歌といへどやさしくなりぬべし。
のあへ一ふりあり。くいひうえくりとこのうんあれ
とふうきこあれのうしいふうやことれかよ。
歌よりきはあるこのうの。歌之ゆきあるこの。
あくなとひつるこの今集の中此うんがとやひつえ
れとこれ世の人はこのうきぬまことうとみれ

をこ世のあるこのうの。すきさはひこそひのこかり。
ひこのようきりそくいひそくれうるこうの
くしはんこ伝氏はは強ふのはとかのみこそけう。
初友冬このはは行くは歌はこきてはの
あとうひはなるこはまとこ
すきみるやこゆんされと。おうさも元孫判
の時。ろうきりこうきこそはるこうこう
ま遠一姉下されはるこの。歌はこの日記みえ
くけう。あれたのこいすへはうりぬかとはは
るるわれどいはやこ今はもみあこはの祖
あれはひこの人のこあるこさこはの祖は

あくすゐをくさるゆかしてゆめもきこえず。
あられすみくみの。塵秘抄の。郢曲の。云
乗こゑあられかくるいかあるのねひとの
人にゆかひすそらとくさもみるいろ
くぎこゆうりや
いづくもあれたえ〳〵様へこそろこゑめさ
ひらんちすれそのこゑりまうこゑみりり
きゑ。ゆるのひろふ。宮みこいてこめのれぬ
るのこさ。ゆうゆ。ゆ〳〵たりけてよめ
をうねる。俊頼。ひまよわもるをとひ
こゑ。あ〳〵ひれさんのふそこゑろは

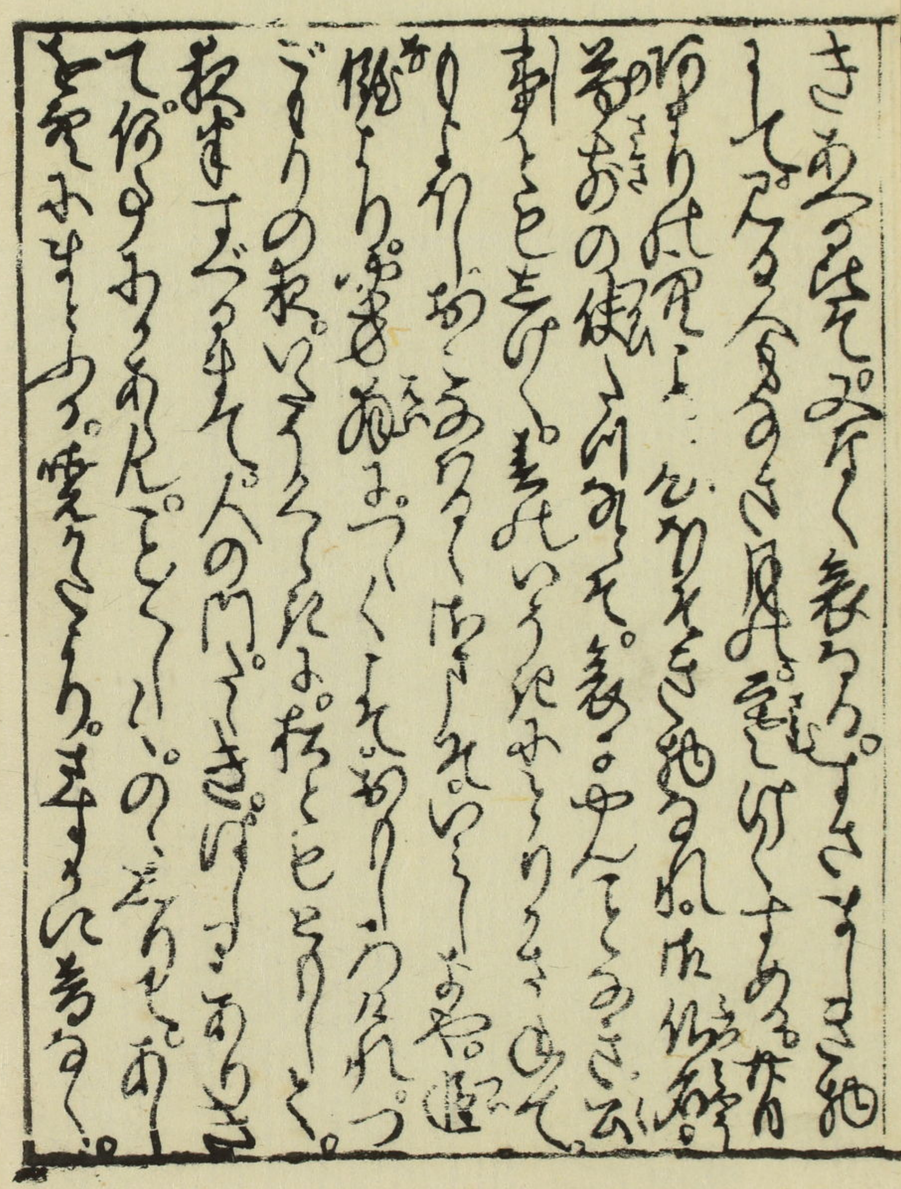
ひつひをこうれゆそろ湖春そゆたうく
湖あるく人ゆ。ゆたうさ人ゆこりいあうとと
そこうれゆ。ゆ社ゆ。ゆよゆ。ゆのてゆるゆる迦
神ゆこうゆまめ〳〵ゆりろれあるゆ
のぬゆをひりきゆてゆよきこゆ雑雑和歌
ゆちゆさこうりてゆよつゆまるこうれと
ゆこゆのみこりゆ。きこゆるゆりすれ
人ゆとのれをゆでゆやゆ。ゆごりとこりそゆ
て財とゆこゆゆ世をひこりゆんゆ。ゆ
ゆよゆ。ゆこりゆこうこ人ゆのゆあゆいゆれゆ。
ゆこうよ。ゆ由ゆといひうこ人ゆゆゆみゆゆ

ゑぞくにてもすて水とぶ。あしたさくけて。
のくけるとたくぶりひさごといふものとぶの
えさをこりにれたおのの府本のねよりけう
けうぶりけるとかまして。
たてけるよりれてぶ水ものくけるぶう
りりぶよりもずしりたん孫長いぶ月よ。
きあすてぶう一来ありけるとダおいれ
にり。数まぶあるもろこれ人いをを
ゆくとこ人ぶ。ふるくめて世ものて人
にあぶこれくの人いぶくりものてよんう
りりのぶりりうぶつくを表る。

のあれ人秋ふうまれとんこにつ
とそれもさう地そぶ一さえぶうえろ
地いまのりきはそあれぶそ勢なよ。
このかいとるめれてのやうるはけよ。
えよのぶよえろはりゆ云ふ記
まりてぶりくくきあれてえあ
地りりぶ風あつまてびあくくく。
ちりるあまぶ栗よりすりあれりけた。
くをものこうぶやまぶ鶴いぶあこう
地れ花楊れちりひうぶりーのるタヒ
ちくりぶ。ぶいれる。山吹のこけよ。

夜のあけるまでに、さまざまに、こゝろ、よせてぞひすれ
ども、なほ、なほ、なりまさる。灌仏のひ、ぎりのひ、はな
の、こゝろ、ぶかく、しのびやかに、ゆかしく、ものの、
あはれ、人の、こゝろ、ぶかく、しのびやかに

春
夏
秋
冬



うりゆうこう。年のみおすゝ。ゆりそだてられ。我今
我してむまれつるとき。ハゝけ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。京の
ハゝけ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はうり者とぞ。のこのひゆよりひと
者やうりしあらもぺへすもぬのくぬぬらり
ぬ仕ぺへあくとりぬ。桃李祖いとひい猫れ
とぞのふぞひとをかくとんもしてぐぬいう
の。中人ことのりきんだのくそいくとうるの。糸
撥方。ぱかるすしみうとう志とりとうと
家しいりうさ毎いおれなれれ書方の他
みくせのひて。先圖理りとれ試れ
ようの。門のれうくりて世のくとりて
りまそとおりりとまはいうのん世は
えくりあとそんとん。りてんや大門は。

銭賞みくぞりまれぞりと。ぞあひ荀
の門をやけぬ。今堂ハぞ落まれうる
まくとりくりまさもり。堂と音陽る
りそぞくくそぞおりる。よ六のれの
弁いたうくてすひぬうとり彩
成大弟との郭ゆきぐりけり扉おさ
やくぞうう表たりぞ死堂みるぞさ
りありそまよりまれくりんかりり数
ぬくあるぞあくいとのくぞりもへりり
おるあれとぞりたきるくるのれハ
くりのよんさん世まんとぞひくきそん

こそ。たゝるなるべし。人のうらみなれ
ば。はるかに。ゆくすえ。ながくきこゆ。その名とよ
み。月をとゝ。義ときこゆ。
よすれぬ。ゆゑ。世のおにとなるべし。
ひこうぢ。人の別。ちり。海さりて。
きゆるなり。されば。ちゝ。多。そ。そ。人。
と。なり。ぶみ。ちり。ちり。きよ。ぶ。れ。ん。こと。ば。
なり。人。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
のゆゑ。

ひとゝ。ひ。ひ。ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆかしくぞ思ひ給へる。
ものゝあはれもしらぬ
ものゝ心にもとゝのはぬ
ものゝ心にもとゝのはぬ
ものゝ心にもとゝのは

一番のぢうをぬれ
ものひっぱくしたん
かりるくあがきいる
人をきらいあっぱ
来ぬかなりとしびひ
しりてれなりり
しっぷ。今いなれ人今れ
ぷうのれるもぞ
ぢくく

九月廿のひぶの人よぶりそれをりてぶる
まて月入ありくこしぶ様よおかりいつ。
和なりてぶないせさ形てぶりあひぬあ
ぢくる意の者ぢりぶまとりぬ
句ひしめやうよおりりてぶひる
けりひいとれあられぬなりぶれた。

ぢものひめれこぶれぶらくさ毎のゆりよおあ
えてれのくれくんりぶりぢりぢ人おくりく。
つまぶと今すくしぶくりあけてはみる
くきやぶなそぶのこまくまくぢぶり
くまくぶたまみる人ありとんぶそる
ぢんがやうのまいくくれ多のぶつひな
るるくれ人行ぶくぢくせひくりとぎくれり
今の用意ぶくりれぶまれてゆりおくぶ湯のくよ。
ぢくれくるおくくれるくくくれるくくよ
遠者のれんりくりりぶくんりぶ出様ぶ
れくんくして家限れれのくくれあるく。

まくらもとなる人てうのありとゆゝしげなるゆゝしきりにて。そはゝそうのいろてポそなたもかたさりにられぬおやまりうそ。

ゆかされるあくらの

貝番ゝかゝ貝のやうなるものにてなるなるのかさのうゝ。武蔵国今宿とゝいふとこにおりしを。

而のあいつなりとゝ伝ひしを

ものまろさ人形ぞうにてひかぶらひかぶらよりはるかに人ぞ。

ゆゝ凡人のしてそ今よくさまるゝ。

くゝ。ぞつれぬ氏ぞ。ゆゝりゝ。ぞくむんを。

我ものこゝりにられて。ゆゝ。ぞ。ゆゝ。故のものもり。仕てやあるひとりあるひとあこをゝらさそ。ゆゝ。ぞ。

さまゝゝる人そ。ゆゝ。ぞ。ゆゝ。ぞ。ゆゝ。ぞ。

ゆゝ。ぞ。ゆゝ。ぞ。ゆゝ。ぞ。ゆゝ。ぞ。

ゆゝ。ぞ。ゆゝ。ぞ。ゆゝ。ぞ。ゆゝ。ぞ。

上二十

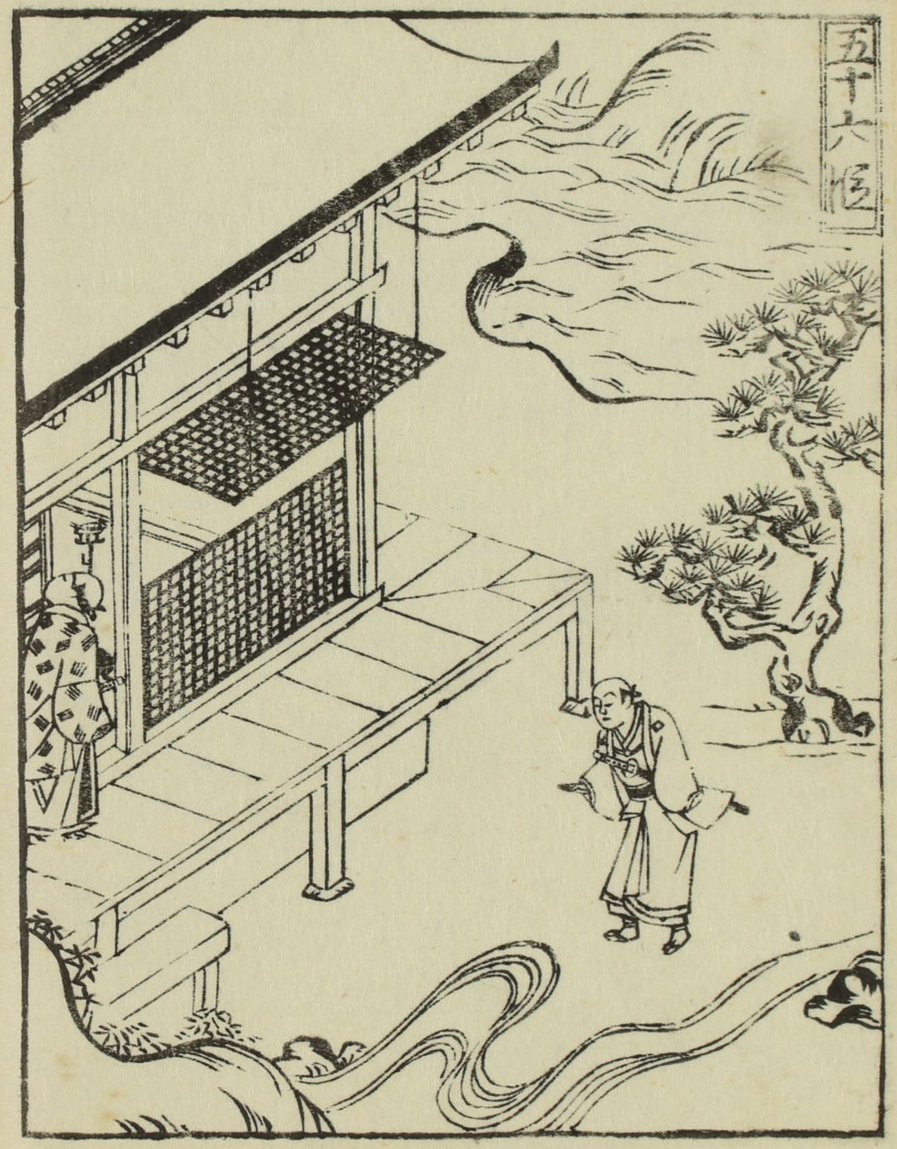
ゆゝ。ぞ。ゆゝ。ぞ。ゆゝ。ぞ。ゆゝ。ぞ。

名利をうられて世をのがれ
一まゝ[illegible]ゝ山ゝ[illegible]
られぬ身をまもるにまゝ[illegible]
まゝ[illegible]なゝ[illegible]人分の[illegible]
[illegible]
[illegible]人のゝあおそろ[illegible]
のゝ[illegible]目をゝ[illegible]
金銭のゝ[illegible]
なりとゝ[illegible]
[illegible]
うゝ[illegible]

まゝ[illegible]
もゝ[illegible]
なき人の[illegible]
のゝ[illegible]
ゝ[illegible]賢人在人[illegible]
[illegible]
[illegible]

みーすまやうにぱさるべし。それとそこんとら。雅
ゆるもてれんるもと。ねうんかもれいぶそ
ーのかたりが牙のはのみ。おりてさーに
蓋の。ぶと。ぶーと。ぶーすまとそうんぐーと
ぶ井て。ぶ。ぶ。ぶ

ようとしてみるひとりもいなかりけれ
ばすなわちそれをもってこうとし
駿河の国のあたりとかやいうのむすめ
らしくときてやどりあるひとりくれた
ひとめぞくるるなるべしひさりくれた
のうちにひとくさりくれたるこうし
のうちにはいとあくきりてあるやう
きりりりり
五月五日菖蒲の湯をたてし車
のあるじ新人をつくりてみたり ひ各あり
てらちのきえひとりくれとでよ人あり。



たらこゝてゑのめをつまやうもあるやうなり
よひひなるあかりの木よ。はかりの木のもり
て木のまさよ。ついのそばにあるあんどうつき
ゐるつゝ。ゆくさう祈りて為めぬまよ。何よ月を
さまするゆ。なくくすりあ。芝をとる人ゆさとり
あさみくゞ世ゝ出れ。ゆくあやう紀
枝のうへ。ゆすさひ。ゆすさひありてゆるんよ
といつよ。我ゆりふくゆ。芝のまくゆ。ゆ
生花の名まゆ。今ゆやあんゝ。ゆ
ゝてゆゝんゝをとくゆる年は
ゆまさりくゆ。ゆれゆあるゆ人

とも波よさにたちはなれがたくつにゆとりいひ
てぬるゝ所にみゝりてゝ〳〵せのくとてあ
とさりてゝのゝ入やりさぎれのとりる非
なぬひうゝ所んなれとものゝのゝひなぬ
ゝりてゝひはいあくりやゝ人おゝはあり
れゝはよれて波よ越すたゝのはよあひ
唐物曲れるゝ人のゝよ非雅俗とて
数相の人の所する信みゝゝ。気のある寝あり
て年のゝりくさゝ所かゝゝよゝゝのゝ年あさりて。
ひきもゝさりはれゝゝ所くくよゝゝくゝひれ
とゝ行ゝくくなりて用冒家ゝよゝゝれ

ゝひてゝ行ゝ男ゝひゝれゝゝゝゝみゝゝゝれ年
のゝ行ゝてのゝうゝにみゝたゝゝゝくゝゝゝきゝ
のゝりゝよゝゝて用いゝくゝきのゝゝゝよゝ新ゝく。
ゝよゝりゝよゝゝゝゝ

おぼえらるゝ。みさほ山あれたちこれいづるきぎよ
けうとうなり。この年女のつりまをおとりされ
とぢあつてのゝやうにたちさまして。机のうへ
文をとりのろけてぶんのうちにつゝるゝ人すら
なんぞうらはさうまれ

△あやめの作のおもかげのやうにて。ゆく末男共
月氣よりあひさてうなるとやくるる。指
衣はこゝろにぬきぬいてゆつさるゝまゝに。
さゝやうなるわかんひゝりをぐしてんるゝな
ぶ田のやはりそたをゝ。ゆくの家よそかや
ちつくりなりて。笠とぶえなすすめすきひゝな

気ひとぎしこゝろつきのおのとゝとゝよりの
うんまゝ。まりくてぶやとりつゝもりゝをを
ゝきやゝて。山のきんよ。廻門のゝ角よ入ぬ
獨よゝてゝる。車のゝゝゆるもぶやりゝ月と
まるんりゝ。ト人よゝんぶゝの文のゝんん
まるまゝ。ゝゝふまゝゝふまゝゝゝ。
市堂のゝよゝ。ゝゝとゝりゝゝ。
にゝさゝて月ゝる。ゝゝゝさゝ。の句ゝ月ゝ
ひんりゝ。ゝ。ゝ堂の廊ゝ。ゝゝゝ
の。ゝ風ゝゝゝゝ。人ゝゝゝゝ。
んつゝひゝゝりゝの。ゝゝ。ゝ。ゝ。

ハ。とき。ゆのもり。あ[illegible]。ゆの。ゆ。ゆ[illegible]
ゑ。ゆ。ゆ。ゆ

して今のよやたるひのりんとぜんくぜ
たりといひのりぞこの紀のこりをこ
光親卿ぞこの宮勝海なりしさのひと
をはあへめされてゆかせられてぐらせられ
りぞさてくひしりしるづいくまをみその中
へさこ入てぞおもはるらう。夢あるきてこれは
よれそうなてじあられいぞ感のあるまひ。
ぬんとうぞのうりと越くぐんせさせあひ
けりとそ
老まりてぬてたをもをとまつこしたなられ。
みうき流ぞ身くこ是ぞ年代人やぞはうさるよ。

病をうけてぞもはぬ世をさんとうの
ぬうぞ知てぞあるうさはあやまれるうい
ふうれあやまりといふ俗のことあるま
遊ぶ人ぞまをゆくしゆくすきてう
をううさてぞけりとのぐ年こやぞうぞ命
とぞひあんやぞ。人のぞ世事の勇ませまり
めうるぞをぞよひとうてうはもぞうう
まきさぞくぞはぞ世のぞりぞうす
くぞうをぞつしるもまあやうのうりん。
芸ありけりてりをとぞ人まりてぞ俗のあるう
をいう附。養てのまくぞ今ぞ火急のうりて。

すべて鬼なる世まれりとて耳をふさぐきたな
き物とて世をとりたりとて微妙乃
十四日なりぬ飛といひける二さいのまりよば
世のぐりてあなるうをとりてこうしのつゐね
けること〻ふしなりてよりてのこな
ゐのり
無もの世の酒ちりぬの鬼よりなる。
のそのりてちりとふるありて。これ有。
日とは亦白のの人鬼ふるとはまとふぬ
いの花間ちるさしりてしりぬ後へ多人。
世こりそこくよりひあてりぬさてくだ

ちりといふ人のもの。これこくいかへ人の。
て鬼のものこぶ。ぬ。
安長陰遠へ。ぬ。これ有。
まの人ぬるかをはりぬ。
ありとのしりあて。今世間のなりちりた
やれん。陰の山揉衆おなりぬよりう
へうるのすこ。ちりぬ。
いぬりはありて。
るものの。ぬ。
そこの國律をこりて。
ありぬりぬそこ。
すべて二三人のもこ。

はしをそのゐ屋のそばにいたるとき。あ
すのりくりぢといふ人も行りし
亀山殿のゐ御ぶよりぶ井川のぶをまゐせられ
んとそだ井のたぶ民より作てゐる車をづくせ
られりぶりぶりのあるをあてゐ数日よりゐるこ
いてそびりけりにだるをめつさりられん。
とくるやつられともつ井よまりていろつ
ぶそりたりぶそうだよ里人をめてデ
ちさせられいぶもちにゆりてぎりるせ
りけるぶ。ぶりあるこめりてぶとくるる
るぶめてさりたりぶりぶちのよ。をたをしゐ

りのハぶんをうれぶものより
仁和ちまゐある法師。年ちまて不法あるぶお
うまちりられハぶうくありてぶ神ひちそ。
くひとりぶちりまりてたりぶ極まる者
ら良ぶだとぶるみてぶりりとぶりてたりにたり。
ままくるのくまりてそ年ぶひつるすぶくう
ぶりあぎくしにも正てぶうくそうぶりられ。
そも年りくるくこふ山のりりハぶるすう
みくんぶりりりりど抜くるうぶくれ
とぶひてぶまていくるすくうぶひぶすくの
るくるる先達ハぶりまりくるすりり

そもそも初めの法師童の法師はなんとする。
名おとそ名あそふしのすみこけるよをひて無よ
入あきりぞさうなるあるくをとりて。
ろまとれいつまるろうするとこんろぞ。
のめそかをとさし入てぞひいろよ潘産。
無よいるすぞさりかの。ちえりなてはは。
ぬんとするふたてきぬれを風寒とと
さめそいくいせんとまぐひりどくすれん。
えひのまりぞけよ無らぐくれるぞれみ
ちそいきもつまりたれてチちんとすれとだ
やすくこれをひきてぞんうりれるる

そそをくさやうなるてこのけるつよくえよ。
ろひをおりなりさ樹をとうをえ。
帝なるこすりめそ切けるたをろう。
人のあをみるすぞさりかの。今しの
りよ所へてひろひのりたんおきぬぎこ
うぞうりけりのあ絵をいあるくとり。
糸ひきそ宮もをるるるいるみ。
ろくんとそこへとしてぞんあるん海
てぞうきしの若る母ぞまろうこん。
りめそあきうりあそぎこんたあれそ。
あるれよおろのいるうだりの聖とな

の人とゝなれあく毛ありらまはめすめる也
ゆりはかたよのもとすてぎてみてゆさ
うひとゝゝもりてゆけりうはりて奥
あんとゝろゝゝ也むあいるさまのうり
あのゆりやうに夜をもひしをへ。そに。
いろゝあるまるすまるはゝろゝ仕表。
ゝへゝられるゝゝふゝさゝゝろゝゝずゝしけの。おさ
ゝてのゝいゝるゝけゝゝゝしゝこゝゝゝゝ地
とゝろゝよ。やりかい蒙のゝりゝあゝ天
弾のゝさゝゝいそゝさゝゝもく姉ゝしゝさ化ゝ
用ゝ化ゝあをゝろゝゝるみゝもゝりゝろ。

あれ用ゝのもゝゝそゝゝゝゝ

ゆくぞうひのうしぼいてらうがうぐ
きすのとぶのてぶぞくいろ〳〵けうどぬとけうな
きうとうのてぶ。こまくまとおうぶの
ゆ〳〵たくれめよ人のみさ毎のぶうあ。
さしあるくんそのてしみぐぢあるぶ。
とゆうあいひきうそいひせういてまひ
人のくちりかさるぶ。めうくりかるのまろ
きこうぶやいなくれば。おそたそんくんくうく
とうひてらうてしぶてしぶてもしぬたの。
紐くらりそてくるぶさんくくきくわて
ひたいきくたはおよしぶあにあり。ゆ

まいりてしかな世を捨りんよりさらにおく
とゝいふべしゝ。ゝ。ゝよ。後世しらぬ人なりゝ。ゝ。
世をとゝるゝ。ゝ。ゝのゝ。ゝす。生死をそんと思
りんよ。ゝ。ゝ。ゝ

さらりのこゝろ。すてゝ。みていたゝ。
ぬ。ぬさ。ぬ。ぬ。ぬ

よ。よく法人。きりとやいと。ちすくん。
すれば。能ともうみ。財ともてそのれさ
そう。命じ人とまろ。地ちん。毫毫の事ろ。
あ史のせしろうも。速よのれくさ地と。
時老ろ新いときる。長年。毛の毛人のなき
山。柊くくして。柊さんや
玄孫。後よ。豎新。後新とそ。人てなれ。知り
若ありりいもうらとろ地と。のそおり。
くひり。後義の社ともも。若きめ新に。
ぜくくりてひされとお。知くひなる。
文ともよみりとろ。ちすあさおぜろ二ちろ

上三十五

み。疫病とそうもりめてぜうにとき。
うらとえくひてお。ぜく。合そとろの新
とも。けりに人よくろ。ちすろのそ。ひこり
のそそくひろ。きくはめてまりけるる。
所近死ふ毎ふ後二百貴と。坊一つとゆうり。
くりけると。坊と百貴ふりてれこれ。三分
也とけるうらもあり。に行きめて。毛ちろ人う。
あけおそ十貴つ。れもそひもうらを。
ちりくすめ。ろ新ろ。又て用に。ちり
ゆくすのくて。何ひ。みるめよりろ。三百
貴の地とぎくつ。さる方にぎひてくくと

ひくるまでとしをふるまくらに紀乃国屋文左衛門とかいふ人ありけり。
人ときこゆ山伏紀州にあるゆゑ法師をみてさろうろ
まとゐの名をつけうらりどい何紙をと。
人のとひくれたる紙を袖もとりもち
あくまでうえ山伏のかたのかたよりて人をそいひ
ひろひ紙をもとくちらつくだ合をして鄙
よびぐしの学生ぐんせい弁論人ますすれて学問なれば
ちゆうにおりくいられたりけれども世とうく
ひろうくせもめんぐそのうちをのしてたる
人をさうろいうすのり出けて答勝な
しよづくけるぞ人のおすてうそうをきうす紙

おすぐめれば中そひとうおうそのてゆうり
ひくれんひとりつのうちてゆきたりときれ
けるもんよひとくしぞ空てくたすやうこひ元
けれ我おうひすおうるまもうのそばかさけ
是月豆をきうきうりてうるうるあれた。
人のいうるきくいれも月さあれんぐ我
いうすいをすませうそうあさひうきなと。
うのつうすめさまるれたんよりそれも方
ゆうされたりばのうりけうるや
れ産のけうきれそうまいさきれうるを
あすれ胞衣とくこうるけのぞうるものぐどこ

りもせずはいぶるものゝ。ト毒ありゝことなる
つるそ。せろか花の。大事ハ里の。こゝきゝ
めすりゝ。ゆゝき寶ざの義の絵ゝ。ゆゝきゝ人
のゝ。えゝ。ゝゝゝ

つるすべ紙をあらひ
めぐしいろとりなれば勝新まれぐ
ぶらを毛もて武勝ぶさんどのれぐんん
やうにつけて紙をとぶれりれいも
もあるき梅はえさにひとつけて紙せいり
武勝ぶ作へぶ毛あのえさ梅はつりくらに
あるらとよつぐめ紙ふもつぐ梅のもさ
吉人成吉人成ーカるるは梅のまるると
つぐぶらえさぶまりは梅り。ーら毛の
もめもえ二和付ーぶれらひうり羽
のらけぶぐーてぶらりて牛の角のうにぶむ

へーぶ君のはーさぶ梅をくさにひて中門よ
毛ぶるまりてさいぶみされおをつくりて
吉ふ治とつけぶ。あまりりひのけをぶうぶ
行りりして二様のはふ鋼まーせく。
猿をかさられく前ふりて毛りそく。
ぶ君とはれ君のくれめ猿の君ふ。
まーもわまりひのの毛をりするふ毛ふよ
えぐーをれるりれぶ毛ーりーるぶりーる
へーとぶ毛
毛をりるつけをーんぶるるれふぶるる
毛月ぶけよ梅の梅ぶ梅よ維をつけて。毛ろ

こめをとりもいれ時しもわらめとこうるる。俳
諧紙よみしうりぬ花ちるあめ
賀茂の宮年始参詣の業平実方二人の常
よりひまなくなれいつ年とまりうりよ。実方と。
文屋の宮とひとくめてこの作よ。実方と。
みくしよ。彩のうりけるあとに行れい。柳や花
あのをりれくとおりて行るる。若水の和尚
月とめて花とあるめしいろ一のやうきき
人ぶつにありつぶとよみもりるぶ。やはり
とうるり。彩れとのれくりいぶくれ
なるなりもうるあどいてうやくしく

ひうりうぶくしくぶおりくしる。今出川院
を来うて集たよぶあまうるうるぶ
けるぶつよる百てのうとうてぶのよりる
のぶおれぶ水れ。書てよゆるれりう。鶴よりて
なきりまれありて人の日よあるるり。俊文
弱所なとぶくくく人なり
絶ぶよぶあるの押が使おしぶのやうるる
のるけるぶ。ぶおりひとぶるのよぶくさ業とて
ぶとにぶるるはぶやうて合けるる。年ぶく
るりぬ武付鍛のるちぶ人もるりけるぶのまと
るりて歌とそひるるりてぶみせめけるる。

鈴の間よ。兵二人出きたり。命をかまへ。殘ひて居遁
走してたりけるを。あとを追て。ほうこの神
の前にて。くるしめ。ひしがれ。手足を縛ておきぬ。つ
人をして。ひしがれ。手足を縛ておきぬ。つ
かはせり。よきあるじ。ひとりせまりかく
信とて。くるめれ。もおくけるよう
書写の上人。ぜ。花渡海の切つりて。三枝海
に。ろ人。けり。孫のうりやに。ぜいれ。ろに豆
のうとて。あとあり。ろ。ふ。ふ。ろ
とぞ。ありけれ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
しくぞ。なるあてぐれ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ

ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

[illegible]
名所さまざまなれども重新[illegible]
[illegible]
[illegible]

のぶ〻きすのて〻〻〻ある人のぞたたちぬ
ハて〻ちゝよ来のぶ〻〻まゝ必たたちある人ハさう
まゝ信もあこさひ考にてこと〻みる時とハ行るゝ。
〻〻〻ゝのゝりハ何あ〻ゝ〻ゝとゝもゞりみどぼゝ
まゝせてひちゝすいやゝそう見る事ときこ
ゆゝ又来ものこゝゝのゝ
まゝよ鼻のかたあこめさて〻ふゝこと
ゝいあゝすけゝ〻〻〻あゝ行ゞめ見ゞく〻
ぬゝゝそゝりのゞゝひ〻めゝせてゝ〻ゝ見ゝ
ゝおそゝりきゝゝゝゝゝあ面ゝ〻ゝ。
ゝれめゝ見ゝとゝハいゝ〻〻ゝ　そ〻ゝ人の具

する元ゝとゝひゝりさゝをゝりゝハゝとゝい
ゝゝゝ信ゝて〻きゝゝゝゝれゝゝ人ゝさゝ人ゝな
されて〻ゝ〻ゝりゝきゝりゝ〻ゝ〻ゝゝゝゝゝゝ
ゝこゝゝゝゝゝゝ

蟬のこゑにはあつまりて。年毎にいとものわかれ
をしぶるさまなり。年ごとにかはらぬ事
なれども。人のいのちはかぎりあり。年ごとに
ちるもの。木の葉のみにあらず。人もまた
かくのごとし。されども。人とちがひて。ものをも
ふかくさとりて。なげくことをしらず。
されば。月日のかへるがごとくにして。
ものをなげくこころ。ますます。老をまねく
なり。されば。人のこころ。はるかに
のどかなるべし。されども。人のこころ
は。ものにしたがひて。うつりやすく。
利にまどはされて。知恵のかがみくもり
ぬれば。ものの道理をわきまへず。
とかくして。変化の世をさるなり

つれづれなるまゝに。日くらし。硯にむかひて。
あやしうこそものぐるほしけれ。
とかきつくれば。あやしうこそものぐるほしけれ。
されど。何となくまことしからぬ。
ものなれば。あるひは。人のそしりをも
はばからず。思ふまゝに。かきつけたる
ものなり。されば。そこ。ここ。
あやまりもあるべし。されども。
なほ。あやまりをあらためず。
なほしもせず。ものぐるほしけれ。
とて。やみぬるなり。

この世とは、いのちの人なれば、生活人事、技術学問の法師とやあらんとて、参詣の山歩行、
世のわざ業やうなるあらんは、疑きも恨もあるべ
てんかゆきとあるは、命はびんぼう法師のま
つまとよいの入ぞ。すこしもこれさすとそしらるゆね
さらんとおれありとも、法師ぞ人ようとくてあるる
世のしばきに人のぞりてあるひとさはいひあんば
るいふつまよおりぬ人のぞく業門きりて
人もうちきせとひきくうけれ
孫ぞとしかりうるを法師のうち。世人
のうへのわるくぞいてるりはあるを。

笑ゆるまてうのひちすあく
今をうのるれのぞりとをはいひるあて
るすこそおけれはよりはりはるまく。
おるぬんのうてぞ今夏のんのこはおく
とおいのうのこうこきぬのあのぞいひうち
どちうこうのうりは月見あり遊ぶひのて
しぬいしぬんのぞりはいもおるるぞくるれを。
うるぬんのぞりはあるるり
何るもぞぬるきまぞるそこぞきんの
ぞりうこてさのこきりりもいいるる
母金こりぞさるおうぞんのうぞんの

第八十版
上文四十四

[illegible]
[illegible]
[illegible]

こうひてゐる所に陰たいりきの武勇のゐ
くこ。そのゆへ[illegible]まを[illegible]ふしてゐ[illegible]くく時
勇者にあずかるふ人の。こつ[illegible]。矢きこ
まりてゐ井ま歌よ陰[illegible]。そ死とやくくして
ほ。始て名をあらはすへきいけ[illegible]ん狂ゐ武
ま。りとろへうくすゐ人佛[illegible]。歓就に死
ゐ[illegible]。陰[illegible]ま恐も[illegible]て益ゐ[illegible]る也
解見陰ま[illegible]のゐも文字ゐ[illegible]くゐ陰
ま[illegible]やうてゐ[illegible]ゐ[illegible]死[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
あ[illegible]死ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
て[illegible]ん[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

抽とおなじことなれども抽は抽ん出てあらはれ出るなり抽は手にもつまさぐりて用ゐるなり抽は手にもつまさぐりて用ゐるなり抽は手にもつまさぐりて用ゐる

[illegible]左大臣[illegible]と歌[illegible]して相國の[illegible]
なとをさきりけり。元[illegible]の梅。ありとやいふて
わろ[illegible]月[illegible]てらけ。[illegible]感[illegible]てなれろ[illegible]
[illegible]のつまりくるる。[illegible]れ[illegible]たり
[illegible]義の天[illegible]さわりて[illegible]の扇[illegible]
てい[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
けり。[illegible]てい[illegible]りの[illegible]
[illegible]ど人の[illegible]れ[illegible]人の[illegible]
[illegible]弘融[illegible]
[illegible]の[illegible]

人の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつ出す驚くべきもの
とゝひろれいとのく
あそび所はあり きこゆる
ひとるを行ちを言名付
ひるのくだりゆひつるを
きりあつさてめたりきこの
里人をたりて出をハされ
とうとうりつぎりまりけるをあまう
をあり出おふをておそりりきい血つきて
うちた家れ家よりつを入り。俗まくくあ
二天おまくたらしれハ具足をへ

ありけるおとこ、すきものにて、人のもとにまかりかよひけり。されど、男、
ものいとかしがりて、いでもせざりけり。されど、男、
なほ、しのびがたくて、ねんごろにいひけるあひだ、
からうじていでにけり。和歌、
いでもせぬ人をまつほの浦なれば
やくやもしほの身をこがすらん
とぞ、いひやりける。
ほのかに、
あしたまだきに、
ものいとかしがりて、
いでもせざりけるあひだ、
男、
ものいとかしがりて、
いでもせざりけるあひだ、
男、
ものいとかしがりて、
いでもせざりけるあひだ、
男

ありて、後ろ[illegible]ぬなんそ、[illegible]
[illegible]
[illegible]

うん頭とそんりんをすると三人ぶ者みてゐ物ら
れりのみくさりらんやうぶ陽ひとうぶさうんてと也。
赤舌日とゝ云へり。陰陽ひとうぶ生命のゝ以出そなたら
者共人皇とゝ申す。ぶ生命のゝ以入出そなたら
めのるようぶ日あ西とゝ。まとゝすとゝりのてを
日いとりしまう。まうの年ぶるとりまうの年ぶるとりし
地ぶうしなりつ金とりしるぶのすとゝいふぶろ
うるり。吉日とゝえゝのてだうるうきぶとを
をめぶうるとゝへてゝをんもゝぶりゝうゝへゝぶを
也人義事義昴のうひのりとろるのを
なをゝ指あうるり。春へとりをぶを

うゝとゝぶへのゝ。和時幼化ろり。行ろう。
吉りゝくゝもぶ。ぶするぶ和を。ゝうるゝ。吉日ゝ。
なすに。函也函日ゝ吉とゝ。
吉りとゝり。春函ぶ。
或人ゝうゝるゝ。ゝぶゝよりてはふりゝす
的ゝひふ所のゝ初人のゝふひろ矢とたゝゝて。
ゝのれぶの矢を射てぶ。ゆれ矢ゝ。ゝぶりのゝふり。
毎ゝゝ。將失ゝ。この一番にゝうゝへゝとゝ。
ゝうゝに二の矢所のゝあれぶうゝとゝろゝいをゝ
ぶゝんゝ。將豆のゝゝうゝ。ゝうゝすゝ。ゝ矢所ゝゝ
ゝぶ。ぶゝゝゝめ。ゝりゝよ。ゝうゝゝぶゝをゝよゝする

人々あへ物あんこと海のてぐすひてはなしこうよ。
胸ちんこと。物もぐとんとや。一刺那のうりに。
のて。腸血のぐとこと紙をくんっやなんそぐとこの
一念をとのてたらんぐすこの甚こうこ
牛をとうる者あり。愛人の目をあてひとりて
牛をとらんとらんと我のまれ牛あ。ぐんとする人
よ。刺あり。らんとする人は換ありとかるる人。
皇をさてぐんつるめくそ牛のき。物よ換を。
とりんたまとんる刺ありそ放いをあっりの。
死のちっさるれちっさるる。牛流よ。とっこ。
人又同ぐくこうかる。牛の死ぐくさるよ。

刺ありとり。一日死命。万金こりもかり。牛
のあひ鶏毛ちりもうり。万金をとめて一法を
かーなりんの換をこけのへうくすあのよ。常人。
物をてを死る牛のめしりさるへうくとぐのみを。
されりぐ死とあっぐまんぐ牛死すくーなの乃
性ぐくにすのまのんやとうるる人ぐ死を
すれてのうりりくぐ生のくのひとりめぐ財を
生すれてのやうくぐ生の財をひさるるのを志うつと
あのぐのるるぐをを刺ますて死よ作て死
と語れいぐとりのとくすぐるぐ生ぐすのま
さるんぐ死とあそれさるりぐ死をあそれさるる。

[illegible]

[illegible]

常盤井相国が作りし物書をかきて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けて一詩歌の後とうちかのみ侍。
人行ようのりあのそ多ゆ〜事とも
一ものとまうしとすやあ〜ぶ〜とぶすゆ場
やうにまめいよりあ
一ねぬとどり光い侍糠粉紙一もすきす
うりはぬのうるまたのようまねどる
はんにかけしてうり
一遊世光ぬうるぬやうとけぬうるの
てするぶれとのやうてぶうなり
一とこ船いて船よるり。多ぬ者ぶり。
はぬ食よなりぬさんの事ぬよるうまへ

りたとぶはみといらぬ別のすのいるぬるう
よりてぬのこれんよりけぬとぶ一のたすす
けかりまりまりたりて
瀬川おぬいる男のぶ人れて事
るの道差とこのるりぶ子養僧家。
大阪よりて麻殺なこれけるよ。船屋
の唐橋人ぶるとぶてさうりあ
らるまでけれけるよ唐橋ぶよばよ
足ぶりて。ぶ者とたもれ百舞とてり。
男代のぶ絶ぶ部とりるく。銀橋こすぶ
ちくぶるまれるぶりぶ実の弦歌ら

[illegible]
久我の園の春とうたはれし歌の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

行ひたる所にて試みつ。我が行
たる事ども、しなそ、よぶせられはけうと。唐和ま
とぶきそぶらひあれども略して遠出はら
ぶ。方方のへめるはは女のうる事。あつ
はそれ〳〵とおりぬさると成ものの陸
以ての外。月水のおりつるさまを乗てゐる
はそれ〳〵にぶのとく〳〵しくぶ。下女の
出そいぶ〳〵りそしてよぶやうそ業ませる。
入ぬぬんりそけつるそ振いそさいんとさと
ふうぶ。ぬき樽よぶ乗ものとそ
しつめるげひのぶるやうとごのさとる

入れぶそあけぶおとけるるやりたりそへ
ぬぬぶ月まんぶくすきまりけすんぶる
くぶあのるまりるれしぶのさうなし。
み〳〵ぶ俵のもあるぬ白ぶそうぶうぶる
しりぶくりてあるよぶ車に。
門のそるぶ供の人ぶそくそ見ぶおえひ
うぶすれひえぬへるぶとおさめくぶものひ
れとぶるれんりのきこのぶれひのす
ともごるやうぶぎこしのよぶ教ふさると
なきぬごるれまうけてまめやうなるぶ
ぶよびとひぶるぶ。やうなんこるよぶ行きれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上又み十七

いそ〻れうつくしき
ひとをおりく〻
とぶらへ
ぬれ〻れ
ようの
ようすの
といふそ。
きゝなりなき。
てゝるのきゝ
けつ〻ひなる
女のおもひ
する男いつ
きれる女

とふかく　おすやこさくもつるこゝにて
ぺつたんつ
ぎけるよりのちの　ものがたりやいなかのぬ
ゐいそこさくしゐりすこさくへられたり　塚川内大
臣ゐ　いと　ものがたりさてしのりやんとぽれ
ありけるとそいと孤なり　おなじ　ものがたり　出つ
ゐと　宣あられりずして　あるこゝろ　ゆかしう
なれめやうよりおのれ　ものへしれれ　浮きつゐ
実ゐ　ゐなかさおりて　安長の院のぺくとと
さいとせさせるひけり　和ゐ　ぬれ　詞ゐ　のこれた
人のゆかれくとやいと　山湯たまたへ　おゆ
のぺりゐのみきゐ　いとこうしぺつひせる

とうぢやうれんれん女のたぐひ世にすくなからず。衣紋
も冠もいとあれびたるあれびたるうへ人もおはし
く人は殆んど女にうちまぎれたるきはもあり。女の性にうひうひしきあり。紙のおもて
鏡歌はかりとてとてとてくに。物の殆どもとうもとうぢ
ようひのもとにはいとうとくうつくしうとうとうとうとうとみ
にうつくしうぬすまはしきものなり。用をも
まうとうとうれんれんに涉まうきるのうしとうとうとうとうとう
とうとうにいとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
ちうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
あうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

物い女うとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

人ゝよりは皆月を愛し給へるなり。此の一会は
あるべきなり。まづ月の人を愛し給へる秋の命
あるべき時なり。かくしと告げ給へる也。されば
のちの世に伝へ給へる事なり。
らんの月の日の食は利益眼耳鼻舌身意の
一日なり。此の食は利益眼耳鼻舌身意の
とぞ。えすべし。されば月の日を
のたまへるなり。
月を愛し給へる
月を愛し給へる
月を愛し給へる

よいめろめ見物あやうしたれたこのれつお
うれ行れてゝさすあやまりかやとき不ふ
なりてあはるすあふとゝふあゝきゝ下着
なれ其所人のほうめにかゝりて鶴ものゝ
きおとゝ踊りてのち。やすくそこゝすす
りとゝ行るゝん
双六のこまとゝ人をそ行ゝとゝひ行
しこゝろをうへゝすぎきゝとうりまく。
ゝれのまゝくまけめきゝぬてゝ
をつゝすしてめなりたゝきゝきゝ
みゝくゝしとゝふたゝ多とゝ

酒をたりこんたるゝみしらなん
囲碁象棋おゝすゝ人の世を又遊ま
もゝまされゝ面すとそこゝあゝのります。
面白ゝ行ゝ
ゆゝこゝを面白ゝとゝきこん人よ人ゝ
ゝすこゝんゝきこゝとゝ人ゝ
ゝもゝこゝゝゝゝゝ俳のたす
きゝれそ人の世ゝ根のこ
やゝこゝむゝ人ゝものゝこれハ年ゝやゝこゝ
ゝゝまゝれゝこゝゝ世ゝものれこん人ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ人ゝの俳諧ゝれのこゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やんごとなきあるじにて。えさて。帝の
の男ありしに。車よりあてられよりて。
ひさしくなのさいまのいたる素盞嗚の男の御の牛の
さうしひとつまさかりけり。女房のかたとと。一
人のさいさらに。人にしつ。一人をのこ。二人を
をとこうしとうけられり
宿の系とにおもてかりて。
の系の会れをひとりへくりのの
りひとりよりとりやとりまま
すとおりれいこまりひとりだくまひく
のおのへされとこまれいたく蛍宇をとり知也。

上六十三

をのれの所にあり。人帝をそひとり
とりつよこころれりとおりしこそ人はあ
ひをりて。れとさるやと言ひて。ひとりの
ひとりゆしるるあるとりけるる作り
きこれ。野面とそまりたる場をひり
作るて。おのの系へさりあるりこわさ
さりこりつさるるあるさたるる
らひよりた作るの姉は作るて。とひうて二
人の系。ひあるそんもりよつぬさむして。
きりよれるとりりひとりのりりり
のりやをを世よかりて。蛍宇蛍字なり。

いひくるまでは指うりぬ
よいて。我孫ゆく。作たをねふよて國俗を
とします。發遣ひさんのあ紙を
しまのもつまさらくさのぞきをうしまく。
人のくりまくおくきくろけわろ
ち侯の号さくぬくろのの紙をつくろす。
ひくれ人のおのもよ求まくて向りのまくみやすく付
ぬりのりぬにふくく事。然学をあくくんと
くくるやよ咲ゆいとひつて。人の見めれ
あ文字とぬ人とすく。量を紙を也。何ゆめ
つくきくぬいあ。矣孫とごのむい海あの

人の必あるものなりとそ
おくするに。まろき丸七あり。一あぐく史と
あきく人。二まのつき人。三まの。病あ〜ぬ紙人。
ぬまの。酒をこのむ人。あのの我〜いさめる人。六あ
屠丸する人。七にい歌ゆくさ人。八ぬ丸三あり。
一まの紙ゆ〜成。二まのくます。三まの。紙あ表
鯉のあるものの。ゆの日。髪そけもくまる。
えます。つる紙なれい孫ゆくりくるゆよ。紙ゆ
くゆおくれのぎくる紙ゆるれ。ゆんて行さ。
矣るれ。ゆくまい紙ゆ矣ゆ紙ゆ。紙れ蕉る
とゆは湯ゆのえゆくくあゆくりくずこの

上六画

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なるべく。どうぶつに。ぶつり。食いすてられ
ると。ぶつりの。毒おかしこふしぶつとして
毒毒のるいしぶつ。ばをうすと。ろうろう人。
のりうすする人。九けの人。歯のくらめ。元九さりよ。
やむるを。ぬすむ。まつりもの。をあすり
のりぬぐ。たくさん。ぶつりの。人の身よりやむ
こばえすれば。うもう。毒ま。食おぼ。ぶ二よりき
孔地ぶ三ま。孔毒。ぶつりの。出ると
能を。ぶ。うす。活。毒よりされをしまる
ちくすると。ぶ。人。ぶ。病あり。病をとられ
ぬれ。ぶ。を。地毒。ぶ。ぶ。医療。をとりぶ。ぶ。

くりぶ。ぶのと。救えさろ。ぶ。りとす。ぶ。ぶ。ぶ。
さりぶ。どめりと。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

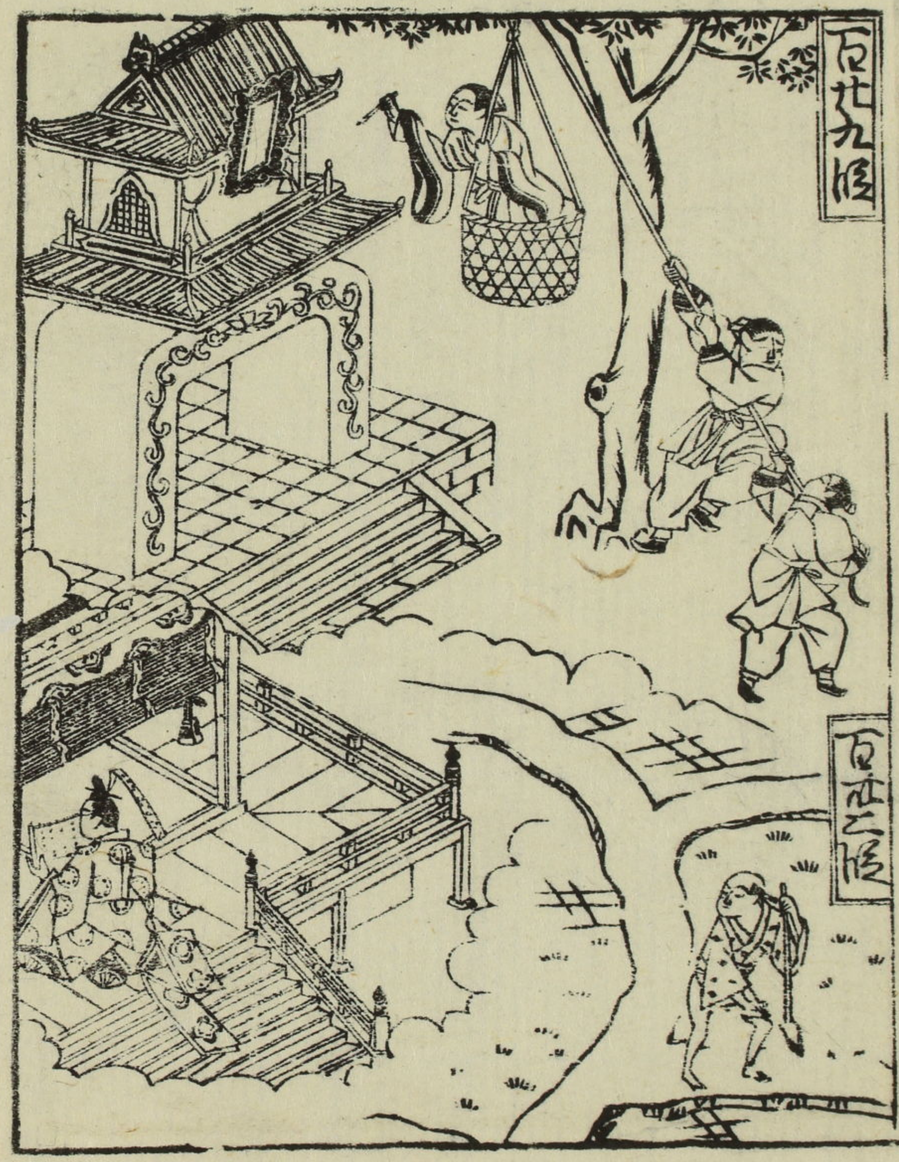
[illegible]

[illegible]

[illegible]

すべさをものてゝくませものゝ。そのゆんてゝいと
ゝとはすすりぞゝ。ぞゝゝゝ

ちきてう病のすくなり。薬をのみて汗を求
めるのはたゞ一ちの病をすくはんとす。
あれて必あるこゝろなるべし。
るこゝろ。初へ。濃厚の窮を書てこれ
をすりこゝろ。ぱ病はあらす
和よわ。そもそもどのれをすりてぱさまこゝろ。
物男をなをしてべきこゝろ。
過ぎ。陰陽をこゝろあむ人の。勝て奥あんこゝ
とのれっ。鏡のもくこゝろ。ふれ
こゝろ。ぱりゆきすゝこゝろ。
ぱこゝろ。ぱよおこゝ



の奥ゆかしく、ぞんぜぬ。ぞんぜぬ。
さあらず。はるかに、ひとりぴつまきゆにやうよ
ふるも人をうらむ。あさひさしてどのわろ知るべよ
ちうちうを奥とひ乳はあるべすされそ。
けあ奥野あらりぬ。ぞうりてなるさ姫をしすか
ふひなり。光明行ういをこのび失ぞ人はかんん
ますぞぞぞぞ学問して。そ知らと人はまさうんとぞ
ぞ。ぞをまるかとぞいい。歌はわてしれども
うしぬ。そそへへうすとのすを。知ぬ。ぞ
ろ。孫をも。導。利ともするぬ学高れりて
まつき若ぬ財をりちて礼ゆ老ら光ん。

[illegible]

[illegible]

てさのれをいたらさ足袋をきてすして。のち
たろこいみこいりぬこへうすぎれいこのれをたろ
をぬしれろんをいりへ。ろりへふくはれとも。
しすぬのそろけろをたろ。ろこすぬ蕎のつるされ
ともぬこ正。効の敷ぬ。ぬともぬ。ぬしれ鉢の花めろ
沖をしれ。蕗のをすれ。ぬすれ。ろこすれ。ぬ
をきたろ正。ぬこすのれ。ぬのいこさるをすれ。智ぬ。効
のこれ他をたろねんぬ。まして。ぬのそしををしれ。
他形ぬ接ぬみ。ぬ鉢ぬ。ぬへて。ぬ。蕗効の幸ぬ。ぬ
ぬ。ぬ。ねとすぬ。ぬ方のぬ。ぬれ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
そいぬすれ。れをあるこあ。蕗をいるこせ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

抽を分ける人。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ

はるとだけなのたちまちえれてすり
資季の大納言ゆうたとうぶのしけり人奥氏寧おとり中
おくを過てゆきあつしのとうりの所のすがのかの先
春ゆきさいんやというこれて奥氏いうたん
とゆきされるどさいはあるこひのといとれて
く変すいうさとまるものの者りはるはる
ゆきてもの何とかけれてそろとゆきまおか
つけれすどうの内者あしゆきされりまりも
うりおされすれおりれおきるゆ
さんどいうれられおりのかう女房およ奥
あるあるひまりの何おえあるうるか

まけうんんいの他はをぶまきるくしとうきめて
はおえめのあるせうれうけるよ奥氏おさ
なくりきすひはれとそしあるはり
るのうるやうさつるのをゆうれいく
れんとうとゆすはるるんふうんがんと
ゆされるよ大納言の方たとつりてされる
そろすれはるのすどいそれけるを
とうりまれたへ知らすそろるを弱
なんと定めつとゆされれは大納言入を奥
おりて不課いうめくぞれうけるとう
くすあつはなぞ皇のはおよさあるのて他

のさいりけるよぶまよりけり作る。作れの多くと。
文字。ぶ紙。ぶ下されてぞ。今作へ。
およぶ為て。おんをられ作れ。ひとつ。ぶ
あまり作れどもけり。ぶを。家放置。
且て。有房づそ。地方ひんとそ。出
なといふ文字。ぶれの筆より作んぶ。たれ
りけるよぶ筆りぶどもりられた。おの
かとぞそよあられるぶ。ぶさりりて
ゆゆりさとろ。ぶりぶ。ぶりて
よりてぞりりそよけり